

旅順博物館藏

新疆出土 漢文佛經選粹

旅順博物館·龍谷大學 共編

現其身舍
有不於元
持菩薩
擔驢
不也世尊
世尊舍利
值德本
善薩慍
承陽三年
維多可

旅順博物館藏 新疆出土漢文佛經選粹

旅順博物館藏トルファン出土漢文仏典断片選影

旅順博物館

龍谷大学

共編

京都

法藏館

2006

Selected Fragments
of Chinese Buddhist Texts from
Xinjiang Region
in Lushun Museum

Edited by
Lushun Museum
Ryukoku University

Hozokan

Kyoto

2006

前言

旅顺博物馆与龙谷大学经过多年的友好合作，一部凝结着双方共同学术研究成果的《旅顺博物馆藏新疆出土汉文佛经研究论文集》、《旅顺博物馆藏新疆出土汉文佛经选粹》图录终于出版了，这是近年来中日文化和学术交流一次具有特殊意义的合作，因而也必将产生深远的历史影响。

旅顺博物馆自创建至今已有 90 年的历史，在馆藏数万件文物中，新疆出土各类艺术品是特色之一。其来源是日本大谷光瑞探险队于 1902 年—1914 年间，先后三次赴新疆等地以各种手段获取的。这些文物类别和形制多样，文化内涵丰富，对于研究古代丝绸之路东西方文化交往和佛教传播具有重要的历史和艺术价值。近一个世纪来，在屡经战乱与劫难之后，馆藏新疆出土文物状况及其研究成果始终受到海内外学者的关注。

由于当年大谷探险队所获文物现已分别收藏于中国、日本和韩国等国家的一些博物馆、图书馆、大学及私人收藏家手中，以致于对这些文物进行深入研究造成诸多不便。因此，开展国际间的学术交流与合作也就成为一种必要。

自上世纪 80 年代以来，随着中国改革开放的不断深入，1992 年旅顺博物馆与京都新闻社合作，在日本京都等 5 个城市巡回举办了《旅顺博物馆珍品展》。在此期间，龙谷大学与旅顺博物馆开始了学术交往。由于该校不仅藏有当年大谷探险队的文物，而且还拥有一批以上山大峻教授为首的佛学研究专家。因此，双方在友好交往中，将整理和研究馆藏新疆出土汉文佛经残片作为首选的合作意向。然而，合作的筹备过程却经历了一个漫长时间的等待。从 1992 年开始，双方在保持长期学术交往的同时，还分别以各种形式申请合作立项。1999 年初，上山大峻教授就任龙谷大学校长后，有关申请文部省国际研究补助专项资金等工作进度加快。与此同时，旅顺博物馆连续多年上报审批合作项目也有了进展。正是由于双方所持有的不懈努力，2002 年末，在整整等待了 10 年之后，旅顺博物馆与龙谷大学合作整理研究馆藏新疆出土汉文佛经残片项目终于获得了中国国家文物局的批准。在此之后的 3 年多合作期间，双方有关学者相互往来，密切合作，克服了各种困难将尘封多年、纸屑般的佛经残片加以整理，借助计算机技术对 25,000 多佛经残片逐一检索并进行深入研究。从而基本上掌握了馆藏新疆出土汉文佛经残片的内容及其历史艺术价值。在新发现的一些佛典资料中，尤其引人注目的是“元康六年（公元 296 年）诸佛要集经”写本残片的再发现，为研究迄今世界最早明确纪年的汉文佛教经典提供了珍贵的实物资料。这些都是近一个世纪以来，馆藏新疆出土汉文佛经残片整理研究所取得的最重要的工作成果。

2005 年 10 月 14 日—15 日，合作双方在中国大连联合召开了“旅顺博物馆藏新疆出土汉文佛经国际学术研讨会”，来自日本、德国和中国的数十位学者，相互交流了对旅顺博物馆及海内外其他机构所藏新疆出土汉文（非汉文）佛经研究的最新成果。这是首次以旅顺博物馆藏品为主题而召开的国际学术研讨会，对促进馆藏新疆文物的深入研究和扩大旅顺博物馆的国际影响起到了积极的作用。

作为整个学术合作研究项目的中方代表和主编，我深感此次合作及研究成果来之不易。在此，我谨代表旅顺博物馆并以我个人的名义，向为促成此次合作研究的上山大峻教授、小田义久教授表示感谢！向出版此书的株式会社《法藏馆》社长西村七兵卫先生表示感谢！向对整理研究工作给予指导的上海师范大学教授方广鋈先生表示感谢！向双方所有参与整理研究和编辑出版工作并付出辛劳的各位朋友们表示诚挚的敬意！与此同时，还要特别向对此次合作给予关心和支持的国家文物局、辽宁省文化厅和大连市文化局及有关领导表示衷心的感谢！

此书所反映的内容，仅是本次合作整理研究工作所取得的重要阶段性成果，围绕馆藏新疆出土汉文佛经残片和其它新疆出土文物的研究还有待于继续深入。通过这次合作，不仅促进了中日两国学者的友好交往，而且也今后不断开展国际学术交流与合作奠定了良好的基础。

中日两国是一衣带水的邻邦，在 2000 多年的友好交往中，文化交流始终是连结两国人民友好的纽带。在当今世界经济一体化发展的进程中，加强各国之间的友好和文化交流已成为一种必然趋势，我衷心祝愿中日两国人民友好和文化交流能得到不断的发展。

2005 年 11 月 29 日

旅顺博物馆馆长 刘 广 堂

序

このたび、旅順博物館が所蔵する大谷探検隊将来品のうち、トルファン地域から採取した約26,000点の仏教經典断片に対する日中共同研究が完了し、ここにその成果を出版できたことを喜びとするものである。

旅順博物館には大谷探検隊がインドや中国新疆地域から収集した仏像やミイラ、仏教經典などが所蔵されており、同探検隊の資料の調査研究を目指している龍谷大学としては、かねてより旅順博物館と共同で、これらの資料に対する研究を行うことを願っていた。その意向を劉廣堂館長に訴え、旅順博物館と龍谷大学との共同研究の企画を提案した。劉廣堂館長は、資料研究の重要性をよく理解され、われわれの計画の実現のために中国の関係機関ともたびたび交渉を重ねられ、研究の実現に向けて尽力された。一方、龍谷大学の方も研究体勢を整え、2002年、日本学術振興会科学研究費補助金「中国旅順博物館所蔵新疆出土文物に関する総合的研究」(基盤研究A 2002年度～2005年度)を申請して採択された。ここに至るまではほぼ11年間の準備期間を要したが、ようやく機が熟し、共同研究合意書の調印を同年8月29日に旅順博物館で、また翌年の3月24日には龍谷大学で行うことができた。

研究の対象とすべき大谷探検隊収集品は多種多様であるが、このたびの共同研究で最初に対象としたものは、「藍冊」と称する52冊のアルバムその他に保存されている仏教經典断片である。残余の資料は今後に継続して研究することとなった。

研究作業の主たることは、資料全点の作業用写真のデジタル撮影、次いで約26,000点の經典断片を大藏經と同定する作業であった。この作業にあたって幸運であったのは、折しも大藏經のデータベース(CBETA)が整備されつつあり、その利用によってコンピュータによる同定が可能になったことである。比較的短期間に小さい断片まで同定が可能となったのは、そうした技術的進歩によるところ大である。それらの同定作業には、龍谷大学の研究者はもちろん、旅順博物館の館員も参画され、双方協力して所期の目的を達成することができた。

その研究成果は、研究完成年度である2005年10月14・15日の両日に、中国大連市で開催した「旅順博物館蔵新疆出土漢文仏經国際學術研討会」で発表された。そこでの発表内容は別刊する研究論集によって報告されることである。このたびの研究によって、これまで不明瞭であった古代トルファン地域の仏教の姿が徐々に輪郭を顯すこととなり、同地域の歴史的解明に対する今後の方向性を見いだすことができた。また、旅順博物館所蔵資料は点数が豊富であることから、写本筆跡の時代変遷の把握に関しても格段の進歩を示すことができた。今後、ドイツ探検隊やロシア探検隊が収集した資料と合わせて研究に利用できるようになれば、資料母体は一層豊富になり、同地域の文化の歴史的様相をより高い精度で明らかにすることが可能となろう。

本書は、約26,000点にのぼる断片の中から、とくに研究上重要であり、世に紹介しておく必要を認めるもの1,429点を選んで、原寸あるいは縮小によって図版刊行したものである。本研究事業が、本書をふくむ一定の成果をおさめるにいたったについては、ひとえに中国国家文物局のご理解、旅順博物館館長および館員諸氏の協力、そして、研究に参加された両国研究者相互の信頼と理解によるものである。また、その勝れた技術をもって資料の撮影を担当された日本写真印刷株式会社、困難な本書の出版を引き受けていただいた法藏館社長西村七兵衛氏の援助に負うところも大である。ここに記して関係の諸氏に心よりの感謝と敬意を表するものである。

なお、2006年3月末に予定していた本書の刊行を待たずに、長年この研究事業を共にしてきた劉廣堂館長が「大連現代博物館」館長に就任し、旅順博物館には新しく郭富純館長を迎えるという突然の人事異動が起こった。劉廣堂前館長の本研究にかけられた熱意と配慮のもと、共同研究をとどこおりなく進めることができたことに心より感謝するところである。郭富純新館長も、旅順博物館所蔵の新疆出土資料の研究の重要性については、深く理解されていると聞く。本研究事業が継続され、新館長のもと更なる成果を納めることができることを期待してやまない。

2006年2月15日

龍谷大学名誉教授 上 山 大 峻

凡 例

図版について

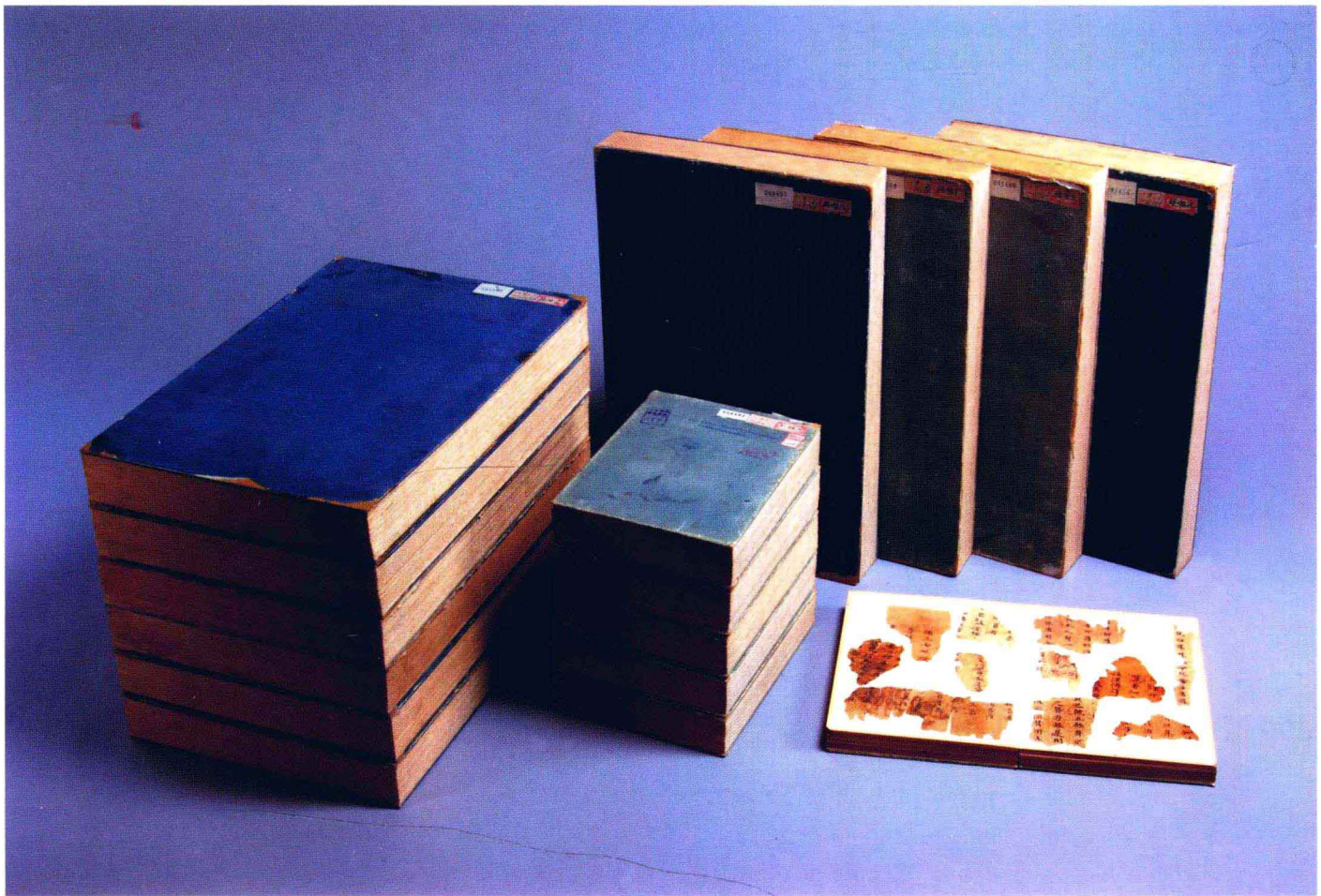
- 1 本図録は、中国旅順博物館所蔵新疆出土漢文仏典断片の中から、主要な写本及び版本の断片を選んで掲載したものである。収録点数：1429点(写本1377点、版本52点)
- 2 口絵、およびAAに属するものをカラー図版とし、A, A', C, D, Pの主要断片をモノクロ図版とした。
- 3 断片のサイズにより、1頁におさまらないものは、さらに縮小して掲載し、()内に原寸との比率を示した。
- 4 写本については、AA, A, A', C, Dの年代基準を基本とし、原則として同定された仏典の『大正蔵』順に並べた。
- 5 それぞれの年代基準を示す標準的な断片を原寸大とし、他を、原則として原寸の60%で掲載した。
- 6 複数の断片が接合した場合は、その接合結果を掲載し、綴合箇所を矢印で示した。
- 7 版本については、その版の種類が特定できた開宝蔵、契丹蔵、金蔵の典型的なものを原寸大で掲載し、他を原寸の60%で掲載した。
- 8 断片番号の意味については、解説を参照されたい。同一番号に複数の断片を含む資料については、当該断片番号の末尾に * を付した。
- 9 識語を含むものや、仏典以外の典籍(道教・俗文書など)については、別に項を設け掲載した。
- 10 旅順博物館所蔵資料以外の断片と接合したものについては、図版末尾に掲載した。

図版掲載断片リストについて

- 1 リストの項目は、掲載頁番号、断片番号、同定典籍名、大正蔵同定箇所、サイズ、年代基準記号である。
- 2 『大正蔵』に同定された仏典についてはその典籍名を記載し、同定できなかった仏典については「不明」とした。
- 3 旅順博物館により「待査」とされた典籍は、一部を除きそのまま掲載した。
- 4 非仏典や非漢字については、その旨を記し、版本については、年代基準の項にPとし、その版の種類が特定できたものを記載した。
- 5 同定箇所の記載については、以下の記号で表示した。 例) T17_0810_0769c26-29
……大正蔵第17卷所収の経典番号810番『諸仏要集経』、769ページ下段第26行目から第29行目。
- 6 『大正蔵』に同定された仏典については、『大正蔵』順に、断片番号との対照表を掲げた。

目 次

前言	劉 廣堂	iii
序	上山大峻	iv
目次		v
凡例		vi
図版		vii
口絵		1
AA		2
A		25
A'		71
C		78
C1		78
C2		81
C3		86
D		178
P		191
識語、その他		200
図版リスト		211
解説		249
研究参加者一覧		258
後記	郭 富純	259
あとがき	三谷真澄	260
Summary		261

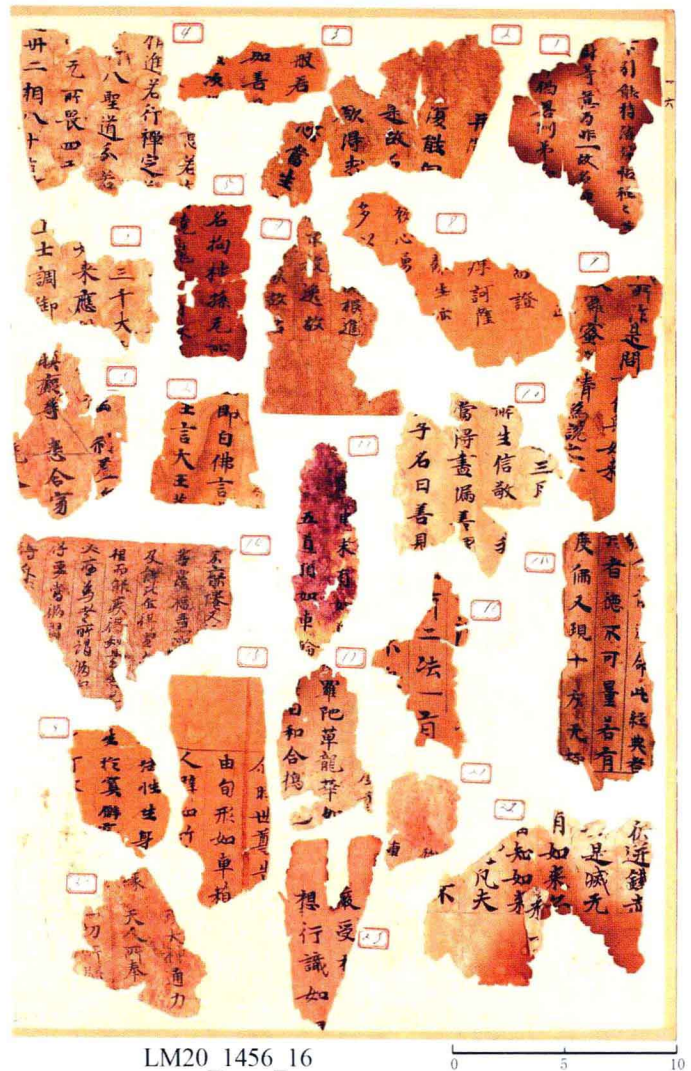


藍冊外觀

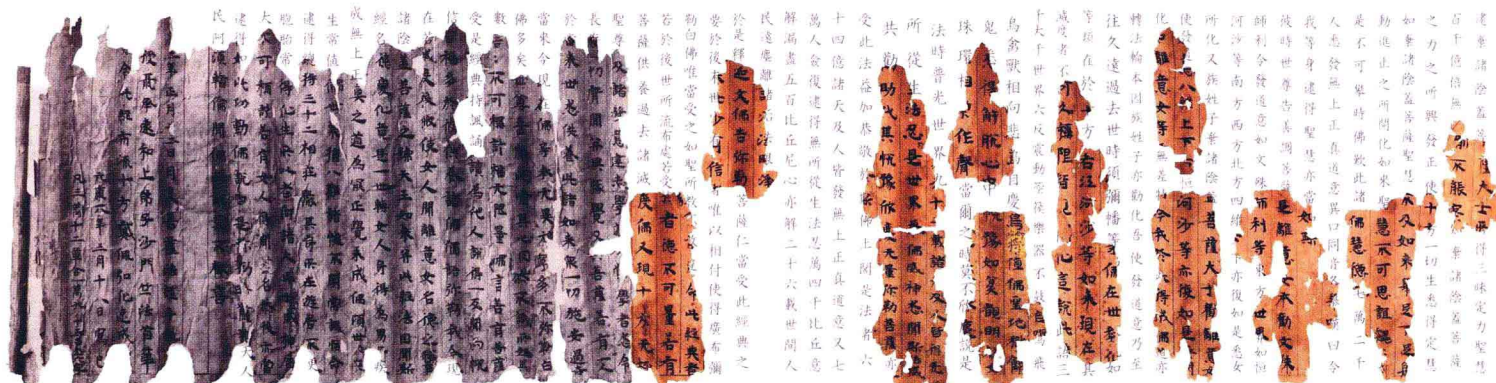


LM20_1497_25

右：「經帖十」第 16 頁
左：「小帳七」第 25 頁



LM20_1456_16



1456_16_15

1450_26_01

1450_27_09

1452_34_10

1455_37_01

1464_24_21

1458_32_08

諸仏要集經 (23%)



LM20_1452_35_11

LM20_1455_33_02



LM20_1458_32_08



LM20_1493_07_03



LM20_1455_37_01



LM20_1452_34_10



LM20_1464_24_21



LM20_1464_34_09



LM20_1455_36_06



LM20_1460_07_18

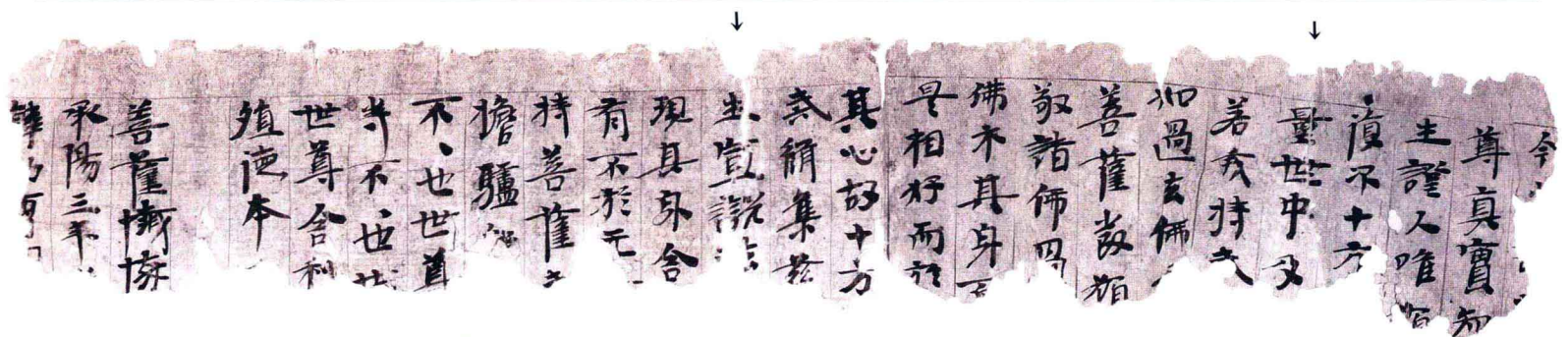


LM20_1456_16_15



LM20_1450_27_09

LM20_1450_26_01



LM20_1467_22_01

LM20_1467_22_03

LM20_1495_01_06

接合写真 (50%)



LM20_1495_01_06



LM20_1467_22_03



LM20_1467_22_01

當復
千佛圓壽菩薩阿羅漢來
奉向三門
下道取同差便

LM20_1490_14_01

延升道和好習
真心終不復中轉跌無有
例獨急疾客：壹空這得

LM20_1462_29_01

个道無
曾我減求道和以不
取遠失蹉跌猶苦蠅墨遊於八方
幅自忘不宗至到無窮無極咸然

LM20_1454_08_07

無差無空
良慈懸轡進中卷利
一禪來羅表裏解脫度過取來入於
心合明自然：宋守善意慈：真真

LM20_1462_35_01

之曜照
照成五光至九色
自然成七寶橫贊成萬朽光精衆
其國王甚好如此何不仍急為善

LM20_1453_17_03



LM20_1452_25_08



LM20_1462_07_01



LM20_1469_12_07



LM20_1455_14_12



LM20_1467_20_04

乃至能作是思
師大復能疾得志
大雨如是無量蓮
已刹音頌此諸花
佛告无畏王子
花印於空空是
菩薩善

LM20_1453_18_06

說
薩一
善男
名曰蓮
香乘遍
无量菩薩
其地柔滿
自無不生
枝自死
音聲

LM20_1505_694

LM20_1517_340

LM20_1490_10_01

可沙等諸菩薩
見不可稱計十
佛淨妙果諸
供養佛今時佛告
善菩薩相是解了一切他
四千他羅尼明

LM20_1466_28_07

LM20_1452_34_06

大養如
子死佛

LM20_1548_44

沙世界其中不
對但見世界地
諸菩薩其數无
眾以佛神力於
首闍羅山

善哉
得果報世尊
亦說去今時解
卡一相

LM20_1458_05_05

LM20_1466_33_06

LM20_1462_11_05

乘萬
太子速疾
即

LM20_1458_05_19

羅三花三
等段大

LM20_1454_03_02

僧衣耶齋食取具醫藥耳
自用与人及与在家者善男
世尊皆与授記於三乘中大
有出家善袈裟者皆得受
有比丘、比丘尼、尼、尼婆塞、尼婆塞
於此起世尊想種種諸善
善男子今時大悲
世尊我今所願行
當勸心令

LM20_1453_38_04

竟忽然一
於於百步現形
人問佛

LM20_1495_05_04

流淚悲不能言
有不祥乎願告其
員大王得生此神人
王若上人

LM20_1462_27_09



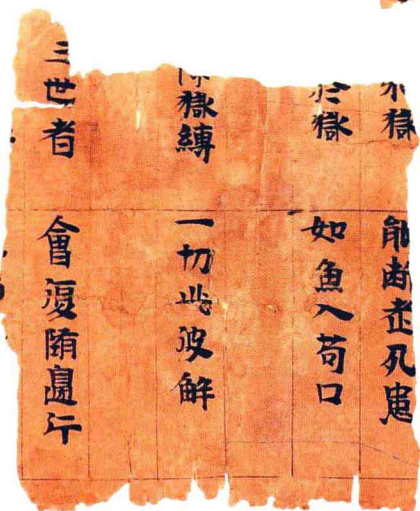
LM20_1451_04_01



LM20_1463_26_05



LM20_1509_1609*



LM20_1459_15_03



LM20_1494_28_01



LM20_1495_38_02



LM20_1465_37_15



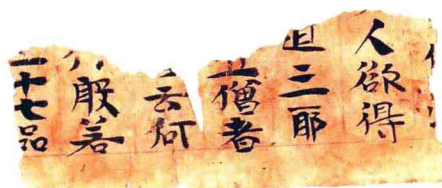
LM20_1489_26_01



LM20_1505_583



LM20_1460_24_17



LM20_1493_13_07



LM20_1463_30_01



LM20_1495_34_03

可破羅蜜頌
來如是大悲嚴
善薩不起一念亦
師若幻師弟子取
辱餘如上言

LM20_1466_28_04

言善以不壞
滴等但覺心不
別列至餅首亦
口下下

LM20_1467_03_08

入世世直
非變曼

LM20_1458_21_11

可毀傷不可
音未者日
百何平澤
毀傷不可
音亦復為
也

三三
令行禪經
師若幻
叫薩

LM20_1452_07_18

內空
共法
功種
說法中
意觸因

LM20_1460_12_04

音亦復為
華故也其

LM20_1460_20_06

須善提語
下可得
氣則為
男子

LM20_1506_906

下可得云
何當主
住亦不

LM20_1467_01_11

下可得云
何當主
住亦不

LM20_1493_26_02

下可得云
何當主
住亦不

LM20_1493_28_02

學力
為一切
祇佛
无量

LM20_1458_15_17

慧如此之
不難精進
是無礙有性
是名色愛想
想行識乃至一切
是一切種智須善
是名色愛想
想行識乃至一切
是是一切種智須善

LM20_1514_403

後薩婆若中求
念故十善道現
乃至十

LM20_1503_283

人心釋提桓因白
人得卅七品乃至
三善提心佛告釋
少所人信

LM20_1462_03_13

波羅蜜色不當於中住痛
於中住何以故住中為行
識中為行識不當行識
若波羅蜜教何以故行識

LM20_1450_31_06

男子善女人
人勿施我持戒
以意以未以我、不
是男子善女人

LM20_1458_09_11

九耳智
無難无耳故
佛言過一切上
波羅蜜佛言一切語
是服若波羅蜜佛言

LM20_1496_28_02

LM20_1513_284

生
令觀
經若
阿解
心反教

LM20_1464_17_19

念聞是不解
不離取若波羅蜜
言得善達可回

LM20_1497_12_03

摩思
故不受
法不
漢聲發佛而
九所

LM20_1506_911

LM20_1461_13_05

人憚
塔供養

LM20_1518_11_11

道會
治

LM20_1548_34

薩未
月再

LM20_1518_11_15

天離
輝提

LM20_1501_32_05

食道達
香即果云何以故
百其欲有周

LM20_1462_05_11

善男
局作和承事
繒絲並益

LM20_1503_296

善提問佛若有斷深般若
為魔中

LM20_1458_25_19

善千
為清摩
翼天上亦不

LM20_1492_30_01

天中天
摩尼珠色

LM20_1501_09_07

尊善有人病
亦之見摩
亦今中有

LM20_1499_19_06

尊祇願善
如是句

LM20_1491_15_01